

情報連絡員報告

(令和8年4月期)

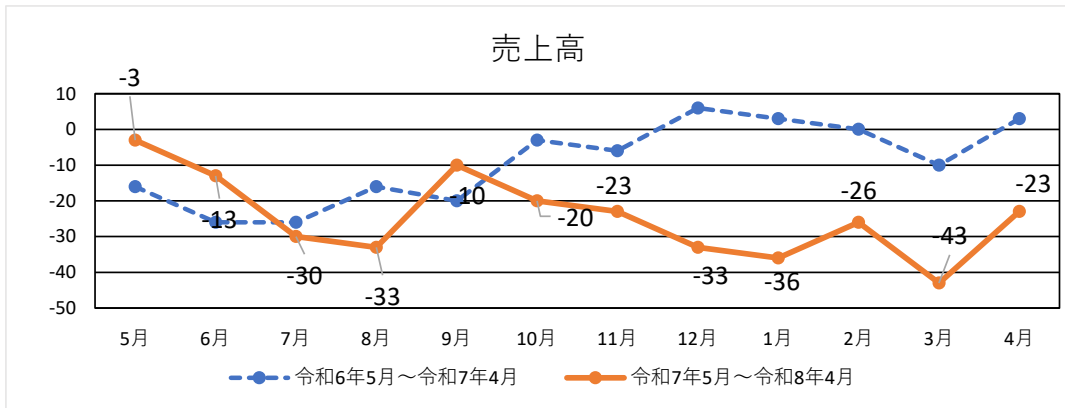
情報連絡員 30名
回答者数 30名

全体概況

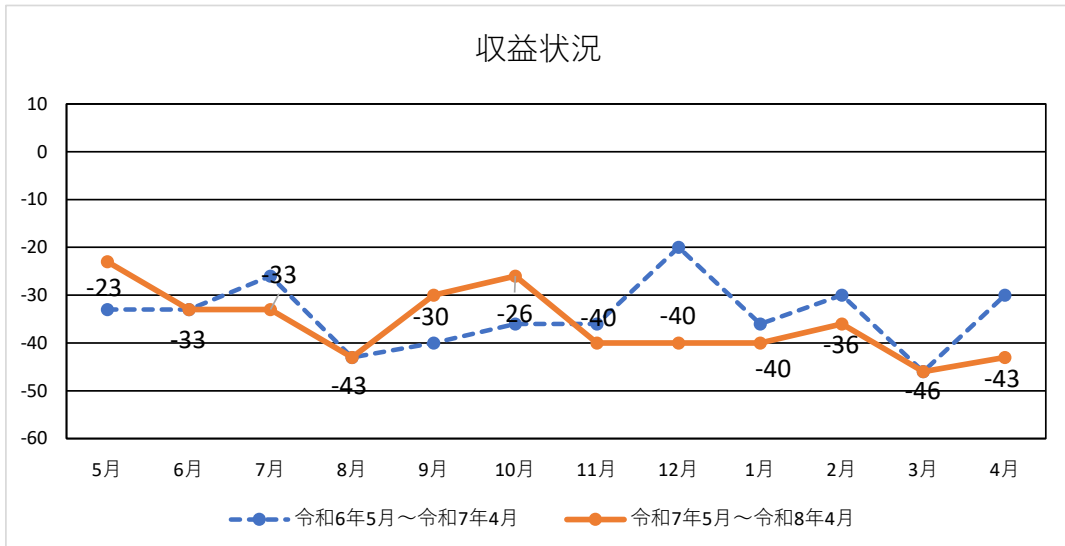
DI値は、前月と比較して、売上高は20ポイント改善、収益状況は3ポイント改善、業界景況は不変となった。

1 主要3指標DI値推移

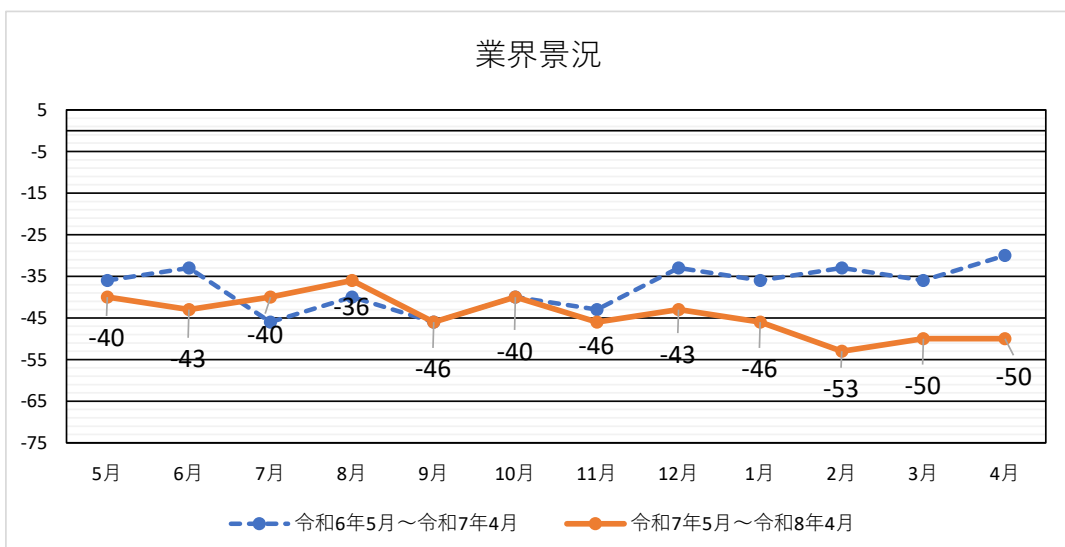
(1) 売上高



(2) 収益状況



(3) 業界景況



2 前年同月比の業種別景気動向

(DI値)

		売上高	収益状況	業界景況
製造業	食料品	↓	↓	↓
	木材・木製品	↓	↘	↓
	出版・印刷	→	↓	↓
	窯業・土石	↓	↓	↓
	鉄鋼・金属	↑	→	→
非製造業	卸売	↑	→	→
	小売	↓	↓	↓
	商店街	→	↓	↓
	サービス	→	↓	↓
	建設	→	↘	↓
	運輸	↓	↓	→



(30以上) (10~30未満) (△10~10未満) (△30~△10未満) (△30未満)

※DI値 = [(増加・好転組合数 - 減少・悪化組合数) / 調査対象組合数] × 100

※網掛けについては、特に悪化した項目

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）	
製造業	木材・木製品	製材業	荷動きは回復傾向にあったが、5月中旬以降はナフサショックの影響を大きく受けている。
	木材・木製品	製材業（プレカット）	前年度の低迷からの反転を期待したが、現況は極めて厳しい。資材高騰に加えナフサショックが追い打ちとなり、建材や住設機器の価格高騰と入手困難から各ビルダーは着工調整を余儀なくされている。これに伴い当方の生産計画も翻弄されている。中東情勢の悪化が長期化すれば、経営困難に陥るビルダーらの続出も予想され、今期は非常に困難な先行きを予感させる滑り出しとなった。
	木材・木製品	製材業（プレカット）	4月は非住宅の大型物件の受注があり売上は好調である。6月まで大型物件の受注が見込まれ、住宅向けも前年比微増傾向にある。しかし、イラン紛争に起因するナフサショックで、石油を原料とする住宅資材の不足が表面化し始めた。5月以降は価格高騰と品不足で施工が停滞する恐れがある。現在、生産工程は順調だが、先行きの予測は極めて困難である。
	木材・木製品	木製品製造業	燃料、原材料、資材のすべてにおいて価格が高騰しており、それらに伴って需要も減少している。
	印刷	印刷・同関連業	印刷需要の減少や設備の老朽化、従業員の高齢化などにより、業務縮小や廃業が依然として続いている。
	印刷	印刷・同関連業	売上高は前年比微増だが収益は芳しくない。資材高騰に伴う価格転嫁がようやく進み始めた折、製紙メーカーから再値上げの通達があり対応に苦慮している。中東情勢による資材不足も顕在化し、現場では採算維持や工期管理が限界に達しつつある案件も散見され、経営環境は一段と厳しさを増している。
	窯業・土石製品	窯業・土石製品製造業	新年度が開始されたが、公共・民間ともに需要が停滞し出荷は依然として低迷している。さらにイラン情勢の緊迫化に伴う原材料費や資材価格の上昇も懸念され始めている。
	窯業・土石製品	窯業・土石製品製造業	出荷は前年同月比55.9%と厳しい滑り出しだが、前年度繰越や新規物件の在庫を前年同期の約3倍確保しており、上半期は安定した出荷が見込める。
非製造業	卸売業	卸商業	中東情勢の影響で資材入荷の見通しが立たず、着工延期や工期通りの引き渡しに困難な事例が生じ始めている。製造業の消耗品も不足の兆候がある。
	小売業	機械器具小売業	今般のイランによるホルムズ海峡問題が中古車輸出に影響し、外国人向け流通の停滞から来場数や成約率に陰りが見られる。プラスチック原材料不足による仕入価格高騰やエンジンオイルの調達困難も重なり、売上に影響している。
	小売業	石油販売業	イラン情勢の緊迫化により、原油価格の上昇や物流の停滞が生じ、一部の石油製品で安定供給への影響が出ている。
	小売業	LPガス小売販売業	ホルムズ海峡の緊張や米国・イランの交渉停滞、世界的な需給逼迫感や原油高を背景に、4月のLPガス価格はCP、MBともに大幅に上昇した。（4月合成CP価格：前月比+102.5 ^{ドル/トン} 、3月MB価格+物流経費：前月比+77.0 ^{ドル/トン} 、対顧客電信売相場3月平均：前月比+3.55 ^{円/ドル} ）。
	商店街	延岡市	商店街は物価高騰、人手不足、店主の高齢化で依然厳しいが、当商店街では新店舗の店主や既存店の若手世代を中心に新青年部の発足準備が進む。4月は歓送迎会や花見、恒例イベントの開催により、飲食・小売業の業況は好調に推移した。
	商店街	宮崎市	繊維業界では仕入れ価格が上昇し、販売価格への転嫁を余儀なくされている。それに伴い売上高の減少が継続しており、商店街の通行量も一段と減少するなど、消費環境は厳しさを増している。
	商店街	都城市	紛争の長期化で石油製品価格が上昇し、在庫確保も困難である。店頭のパッケージ資材の切り替えや代替品調達に奔走するなど混乱が生じている。期初から予断を許さない事態となり、3月末の閉店店舗の影響や人通り減少も相まって、商店街のさらなる空洞化が懸念される。
	サービス業	観光業	相次ぐ物価高騰や不安定な中東情勢の影響を受け、バス・観光業界では依然として明るい兆しが見えない。前年同月比の数値を見ればその差は一目瞭然であり、仕事量は減少している。
	サービス業	自動車整備業	今月の実績は前年比で微増となった。今月より第2・第4土曜日を完全休業とする新体制へと移行したため、稼働日数の減少による影響が懸念されたが、現時点では特段の問題は生じていない。

報告者名

宮崎県中小企業団体中央会

報告年月

令和8年4月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
サービス業	自動車車体整備業	塗料製品およびシンナー関連の原材料が不足している状況にある。
サービス業	自動車運転代行業	4月前半は歓迎会などが縮小傾向で、入学式等の行事期間中も繁華街の人出は限定的であった。後半に活気は回復したものの、ゴールデンウィークの開始とともに再び減少した。一方で、県外からの来訪客は増加傾向にあったと推察される。
建設業	管工事業	原油価格の高騰に起因し、大手ハウスメーカーにおける一部製品の生産中止や、管材の在庫制限が生じるなど、極めて不安定な状況にある。
建設業	建設業	年度末の補正予算による受注工事が本格化したことで、生コンクリート等の販売数量が前年同月比で1.6倍を記録した。もっとも、現段階では月別の取引数量が継続して増加するかについては、予断を許さない状況にある。
運輸業	軽貨物運送業	4月度は年度末の引越繁忙期のずれ込みが10日頃まで継続し、全体として運送量は増加した。しかし、人手不足と高齢化により、10年前と比べ業務消化率は60%程度に留まる。燃料価格は一時微減したが、米国の対イラン情勢の影響で再高騰が懸念される。世界情勢の変動が景気冷え込みに直結する構造であり、小規模事業者にとって先行きは不透明である。賃上げは実施したが、運送料金の改定交渉は難航しており、今後も粘り強く継続していく方針である。
運輸業	貨物運送業	原油価格は、米国・イラン間の協議進展や需要見通しの下方修正が上値を抑えた一方、米国によるホルムズ海峡封鎖発表などの供給不安が相場を押し上げた。その後、イスラエルとレバノンの停戦合意や海峡開放の表明で大幅反落する場面もあった。国内燃料価格は、補助金支給額の大幅減額の影響で小幅な上昇に転じている。今後の供給に対する根強い不安感もあり、組合員は危機感を抱いている。